

学習指導案形式例【R8 各教科】 (群馬県教育委員会)

○○科学習指導案

単元名(題材名)「○○○○○○○○○○○○○○○○」(学指要領:例(),ア、(7))

令和○年○月○日(○) 第○校時 ○○○○教室
○○立○○学校 ○年○組 ○名 指導者 ○○ ○○

I 単元(題材)の構想

1 単元(題材)の目標及び児童(生徒)の実態

	目 標	児童(生徒)の実態
知識及び技能		
思考力、判断力、表現力等	<文型・文末例> 知及技「～を理解することが <u>できる</u> 。」 思判表等「～考察し、～表現することが <u>できる</u> 。」 学び等「～を主体的に追究(追求)しようとする。」	
学びに向かう力、人間性等		

2 評価規準

知識・技能	
思考・判断・表現	<文末例> 知・技・思・判・表「～ <u>している</u> 。」 主体態「～ <u>しようとしている</u> 。」
主体的に学習に取り組む態度	

3 指導及び評価の計画(全○時間:本時第○時) ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	～(a)～			
2	単元の課題			
3	～(b)～			
4	～(c)～			
5	～(c)～			
6	～(c)～			

*活用するコンテンツ等:(a) (b) (c)

(4 例:○○の価値 ※各教科等の特質に応じて設ける)

<例>
 国、外「言語活動の価値」
 音、図美、技・家「題材の価値」等

【単元(題材)の目標】
 ・学習指導要領で示された各教科等の内容を基に、**単元や題材を通して育成を目指す資質・能力**を記述する。

【評価規準】
 ・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(国立教育政策研究所)を参考にし、作成をする。その際、資料の「内容のまとめりごとの評価規準」をそのまま使用できない場合もあるため、実施する単元(題材)の内容と照らし合わせ、各観点の評価規準を吟味する。

【指導の計画】
 ・(単元(題材)の目標の達成につながる)「**単元の課題**」を解決するために必要な**学習活動を明確にし**、単位時間ごとに一文で簡潔に記述する。
 ・「つかむ」「追究(求)する」「まとめる」過程の区切りは実線、その中を細分化する場合は点線とする。
 ※別紙として示す場合は、資料として添付し、3タイトル横に「※別紙参照」と示す。

【例:○○の価値】 ※各教科等の特質に応じて記載
 ・指導者の意図に基づき設定される言語活動、題材等について、児童生徒の資質・能力の育成とのつながりから、その魅力や必要性等を、簡潔に記述する。(主に右枠内の教科)
 ※「教科学習指導案例」、「各教科等授業改善プロジェクト学習指導案」参照

【学指要領】
 ・学習指導要領解説における指導事項や各分野の内容等を、記号で記述する。

【児童(生徒)の実態】
 ・前単元(題材)までの学習や系統性を踏まえ、**本単元(題材)の目標との関わり**から、実態を簡潔に記述する。
 ※原則として、前単元、同系統、生活経験等
 ・「～ができない。」といった否定的な記述のみは避け、児童生徒の実態を肯定的に捉え、「～については理解している。」のように、プラス面を記述する。

【評価の計画】
 ・単元(題材)の評価規準に照らし、各単位時間の評価の観点を、絞り込んで位置付ける。
 ・児童生徒の学習状況を見取り、必要に応じて教師が指導、支援するなどして学習状況の改善を図る「**指導に生かす評価**」は「○」、評価したことを指導に生かしつつ、評価したことを記録する「**評定に用いる評価**」は「●」を枠に示す。
 ・各教科等の評価の表し方や考え方、観点の位置付けについては「群馬県教育委員会『指導と評価の一体化の充実に関する資料』(各課発行・提供資料 義務教育課)」を参考にし、工夫して示す。

【活用するコンテンツ等】
 ・参観者が後に参考とできるように、学習で使用するWebのURL情報などを、(英小文字)の後に記述する。
 例(a) <http://www.nc.gunma~~~~> 等
 ※(a)などは、指導の計画の中に位置付ける。

